

若者による新たな交流事業の創出 ～地区計画の実現～



温泉地区地域自主組織「ダム湖の郷」

温泉地区の概況

※R5.10.31時点住基データ

- 人口 389人
- 世帯数 156世帯
- 高齢化率 52.4%
- 面積 13.15Km²
- 自治会数 9自治会
- 人口構成



出雲湯村温泉



尾原ダム



温泉キャンパス
(旧温泉小学校)

温泉地区計画(2024~2028年度)の策定

- 令和3年度より3年をかけて地区計画を策定
 - ▶R3住民アンケート⇒今後の地域の担い手大きな課題
 - ▶R4テーマ別意見交換

若い世代からの意見

- 同じ地区内にいるのにつながりがない。
 - 保護者世代や若い世代が交流する機会がない。
 - 若い世代や多世代で話をする機会がほしい。
 - 温泉地区での楽しみを自分たちでつくりたい。
 - 今の時代にあった地域活動を。(負担感が少ない地域活動)
- ⇒つながりたい！何かをしたい！若い世代がいる

地区計画の構成

この地区計画では、以下のように4つのメインテーマを設定し、そのもとで個々の地域づくりのテーマを整理し、体系化しています。

テーマ1 温泉を、みんなでおいに語りあい、触れあえる地域にしよう！

- 住民の「語り場」づくり
- 住民の「触れあい」の場づくり
- 住民の「学び」の場づくり

テーマ2 温泉を、年をとっても、安心して暮らしていける地域にしよう！

- お年寄りの暮らしを、みんなでサポート

テーマ3 温泉を、若い世代がのびのび暮らし、活躍できる地域にしよう！

- 若手主体の地域「元気づけ」プロジェクトを導入
- 「子育てしやすい温泉」をめざした環境づくり

テーマ4 みんなで取り組むべき課題には、力をあわせてチャレンジしよう！

- 防災対策
- 鳥獣害対策
- 地域の環境・景観保全

3 温泉を、若い世代がのびのび暮らし、活躍できる地域にしよう！

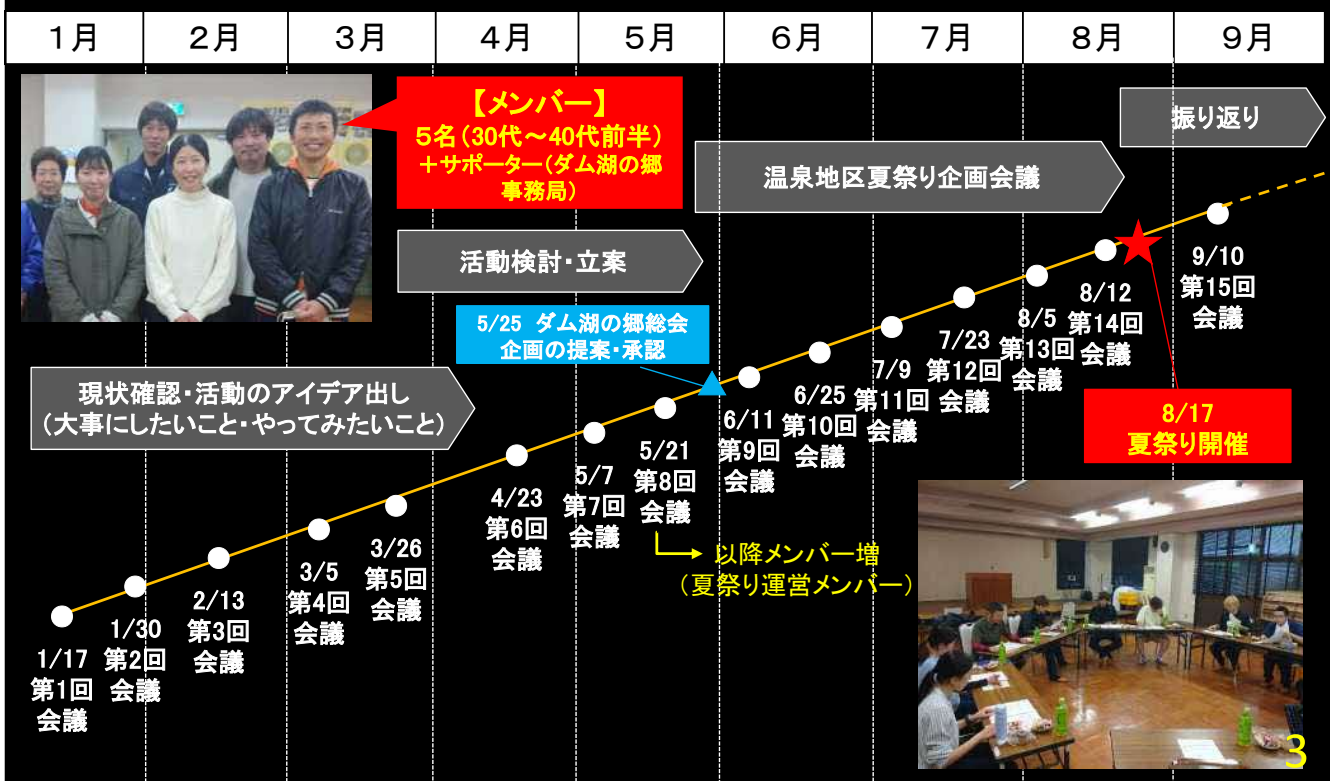
若手主体の地域「元気づけ」プロジェクトを導入

若手主体で企画・運営する交流活動などを実施

若い人たちが自由な発想で、子どもたちの交流や、多世代交流ができる事業などを自分たちで企画・運営し、地域自主組織が予算づけも含め、後方支援する仕組みを検討し、導入します。

温泉地区地域経営カレッジ(R5~R6)

- 地区計画の実現に向け、令和5年度から地域経営カレッジに参加
- 若手主体による地域活動の具体策を検討



検討結果 ①活動の立案にあたって大事にしたいこと

- 温泉地区の若手世代、多世代のつながりをつくること
- 人口が減少しても「温泉地区はまだいける！」という機運をつくること
- 義務感ではなく主催者自身が楽しく取り組めること
(負担感の少ないカタチで)
- 自分たちのこどもの頃の体験、原風景をつなぎたい！
- こどもたちの地域への思いを育むこと(子どもたちも楽しみ活躍する活動)
- 温泉地区の地区外へのPR(ファンの獲得)
- 地域資源の活用
 - ・豊かな自然(川や山) ・槻之屋神楽 ・出雲湯村温泉 ・尾原ダム
 - ・旧温泉小学校(温泉キャンパス) ・農産加工施設(利用が減少)
- これまでである温泉地区のイベント等(尾原ダム関連のイベント、ジョギング大会等)とは別の、若いメンバーによる新しい視点での活動を！

4

検討結果 ②活動のアイデア(主なもの)

- 子ども対象のレクイベント
...運動会, 温泉キャンパスでのかくれんぼイベントなど
- ダム湖や河川等を活用した体験イベント
...水上綱引き, 斐伊川を遡上するレース「リバーラン」
- 温泉地区全体での夏祭り
...現在、地区全体での夏祭りの開催はない
- こども神楽の復活
...過去に公民館事業として実施。こどもの減少により事業廃止。
- もちつき大会・そば作り
...農産加工施設の利用
- 地区内の映えスポットをまわるスタンプラリー
...ダム、湯村温泉、新たな映えスポットづくり
- 中高生や若手世代を集めての意見交換会
...集まるきっかけづくりが先かな？



▶ 若い世代が集まるきっかけ、いろんな要素を入れ込める「夏祭り」からはじめてみよう！

⇒ダム湖の郷に提案

⇒ダム湖の郷事業として若手メンバー主体で実施することに！

5

温泉地区夏祭りの企画(コンセプト)

【目 的】

若手世代の関係づくり、多世代交流進め、
地区外にも温泉地区をPRすることで
温泉地区の元気をつくる！

目的達成のために・・・

- 仲間をつくる！（若手世代・地区内外からの協力者）
- 主催者自身が楽しむ！
- こどもたちの心に残るものに！
- 温泉地区のよさを活かしつなぐ！
- 無理なく継続できるものに！

開催日：8月17日（土）
18:00～21:00
会 場：温泉キャンパス
（旧温泉小学校）

6

温泉地区夏祭りの企画(工夫)

①仲間をつくる！

- ・地区内や出身者の若手世代(20～30歳代)を対象に企画運営スタッフを募集。
- ・カレッジメンバーから声掛け。
- ・無理のないところで企画会議の段階から参加。
…カレッジメンバーに加え毎回5名程度が参加
- ・当日は16名(男性14名、女性2名)がスタッフ参加。
- ・スポ少でのつながりが活かされた。



若手グループ「ONTAMA」(おんたま)結成！



7

温泉地区夏祭りの企画(工夫)

②主催者自身が楽しむ！

- ・KANUKAPARK(移住者の方が温泉地区内にオープンした猪肉加工施設)で定期開催されている食のイベント「雲南EXPO」と共同開催。
- ・イベント店舗の多くを雲南EXPOの出店者に委ねることで運営の負担を軽減するとともに、地区外からの来場者の獲得につなげる。
- ・これまでの地域イベントのように地区内の自治会や団体に出店を依頼するのではなく、「地区内の人を出かけて楽しんでもらう」をコンセプトに実施。
- ・地区内でもKANUKAPARKのことをよく知らない人も多く、地域とのつながりの機会にも。

【KANUKAPARKのWebサイト】

<https://www.kanukapark.com/>



8

温泉地区夏祭りの企画(工夫)

③こどもたちの心に残るものに！ 温泉地区のよさを活かしつなぐ！

●こども神楽の復活

- ・ステージイベントとして「こども神楽」の公演を企画。声掛けにより3名の参加があり、槻之屋神楽の指導により、5月末から12回の練習を重ね、本番では素敵な演舞を披露。
- ・こども神楽は、過去に、公民館事業として実施されていたが、こどもの減少により取り組まれなくなり、こどもたちが地元の神楽に触れる機会がなくなっていた。

●中学生スタッフ

- ・地区内の中学生3名が出店等の運営スタッフとして参画。

●子ども向けブース

- ・主催者企画として鮎のつかみ取りや射的などの子ども向けブースを設置。



9

温泉地区夏祭りの企画(工夫)

④無理なく継続できるものに！

●財源の確保

- ・次年度以降も継続的に事業が実施できるよう、自主財源の確保方法を検討(市の担い手育成事業補助金は1年限定)。
- ・イベントの記念品を作成し協力金の位置づけで販売(抽選会を実施し抽選券とセットで販売)。
- ・主催者の出店ブースの売上は、今後のONTAMAの活動費に充てることができるよう本体会計とは分離。

●準備・片付けへの多世代の協力

- ・準備と片付けには、ダム湖の郷を通じて、地元の高齢層にも協力を呼びかけ。
- ・なるべく短時間で終わるよう工夫し負担を軽減。



10

温泉地区夏祭り開催実績

○来場者約250名
(うち地区内の方約7割)

○地区内や出身者から、寄付や抽選会景品の提供も多数。



2024 温泉地区 夏祭り

温泉の若者たちが
ゼロからつくりました

8/17(土)
18:00~21:00

温泉キャンパス校庭
(旧温泉小学校)

※入場無料
※雨天決行

出店者・ブース

- ① Lism(古着等販売)
- ② 草工屋(ワークショップ)
- ③ アユのつかみどり
- ④ 飲み物・かき氷・射的など!

うんなんEXPO
キッチンカー多数集結!

カブカパークほか

イベントスケジュール

- 18:00~ オープニング
- 18:05~ こども神楽
- 18:40~ 出店者紹介
- 19:15~ 大東のハワイアンバンド
- 19:50~ バルーンアート
- 20:20~ 大抽選会
- 20:50~ フィナーレ

会場・駐車場のご案内

主催 温泉地区地域自主組織「ダム湖の郷」 TEL: 0854-48-0077

11

温泉地区夏祭り開催実績



12

振り返り・今後へ向けて(ONTAMAメンバーより)

- ・すごく楽しかった。来場者も楽しそうなのが、本当に「やってよかった」と思った。
- ・何年かぶりに会った人もたくさんいた。共に活動でき楽しかった。
- ・誘われた時はめんどろという意識もあったが関わる中で楽しさと充実感があった。
- ・当日の準備からの関わりだったが、次回は企画段階から関わりたい。
- ・結婚で温泉地区に来たが、地区外の友達も来てくれた。温泉地区に実は若い人いることわかり、知り合いになれた。
- ・地区外居住。こうした取り組みが地区外在住者にとって温泉地区に来るきっかけになる。人とのつながりを維持することにもつながる。自分を覚えてもらえていることもうれしい。
- ・準備時に、年配の方からロープの縛り方を教えてもらった。生き生き活動しておられた。
- ・発案時には、反対意見の不安もあったが、やっていくと反対はなく、楽しそうに関わってもらえた。このことが励みになる。世代を超えた一体感が生まれた。
- ・年配の方に「企画してくれてありがとう」と握手されてとてもうれしかった。
- ・今回は若者向けのイベントに。地元の来場者は普段地域活動に関わっている方が多かった。より幅広い方に参加をしてもらえる工夫も必要。
- ・メンバーそれぞれの特性を活かして取り組み、誰一人かけてもできなかった。
- ・20歳代世代は無理やり声を引っ張って参加してもらった人もいるが、「次回もやりたい」という意見が出たのがうれしい。若い世代の活躍の場のきっかけができた。
- ・地域では何もないように思うが、自分たちで楽しいことができる。発展すれば温泉にお金を生むこともできると思う。もっと、温泉地区を楽しい場所だと内外に知らせよう！

▶「楽しさ」をモットーにアイデアを出しあいながら活動を継続していく！

13

振り返り・今後へ向けて(ダム湖の郷より)

- ・イベントは地元の人にもとても好評。
- ・コロナ禍で地域での交流機会が減少しつながりが希薄化。地域でもこうした事業が求められていた。地域を元気づけてくれた。
- ・高齢の方もでかけやすいイベント内容になるとよい。
- ・若い世代との関係ができ、様々な活動に声を掛けやすくなった。
- ・「若い人は地域での活動をするのを嫌がっている」と決めつけず、声をかけること、アクションを起こすことが大事。
- ・一人ではなにもできない。若い頃からのつながりづくりが後の地域の担い手につながる。

▶ 若手世代のやりたい取組みをバックアップしていく！

